

鹿児島県知事選挙の結果を受けて（声明）

去る 7 月 10 日、参議院選挙と同時に行われた鹿児島県知事選挙は、新人の三反園氏が現職の伊藤氏に 8 万票余りの大差をつけて初当選を果たした。われわれは、この結果を歓迎するとともに、全国で唯一稼働している川内原発を即時停止させ、廃炉に向けた道筋を明確にしていくために、これまで以上に奮闘する決意である。

あの福島第一原発事故から 5 年 4 ヶ月が経過した今日においても、放射能汚染を食い止められないばかりか、事故原因の解明すらできていないにもかかわらず、昨年 8 月と 10 月に川内原発 1、2 号機の再稼動が強行されたことに多くの県民が怒りと不安を感じた。さらに、今年 4 月に発生した熊本地震は、原発事故の再来を多くの県民に想起させた。しかし、「原発問題は争点にしない」と豪語する現職知事に象徴されるように、原発問題が知事選の争点になる状況は見えて来なかった。したがって、われわれは「現職知事の 4 選阻止」、「川内原発の即時停止・廃炉」を中心課題に据えて候補者の擁立を行い、離島も含む県内全域を視野に、精力的に選挙活動を展開した。その結果、原発問題を重要な

争点の一つとすることができた。このことは、投票日当日「川内原発は停止すべきと答えた有権者が58%に上った」とのNHK報道によっても明らかである。さらに、多くの県民が求める「現職知事4選阻止」を実現するために、新人候補の一本化協議を行い、原発問題を中心とする「政策合意」を締結した後、告示直前に三反園候補への一本化が成立した。このことが、三反園氏への追い風となって勝利に結びついたことは明らかである。

今後われわれは、県民のいのちとくらし、豊かな自然を守るために、新知事に対し「合意文書」で確認した内容を忠実に実行することを強く求め、できるだけ早急に川内原発の停止と廃炉を実現するという新たな運動に着手する。そして、この運動が全国の脱原発運動を励ますものとなることを信じ、さらに力を結集してたたかい抜くことをここに誓う。

2016年7月11日

とめよう原発！かごしまの会

代 表 平良 行雄